

「第3回 夏休みキッズ・ビジネススクールinえどがわ」実施レポート

ゼロの状態から、会社を作り、銀行からお金を借りて、物を仕入れ、販売し、決算をし、お金を返済し、税金を納め、利益をみんなで分ける、という会社経営の流れを、1日で擬似体験する。

この様な体験教室が、2009年8月8日に東京都江戸川区で開かれ、小学5・6年生23人が挑戦しました。

参加者は9時に開催場所に集合し、5グループに分かれます。地域も学校もバラバラな初対面同士でグループを組んでもらうため、皆緊張した面持ちです。

ご両親が後ろで見守る中、開会式と、今日1日で何を学んで欲しいかを、スーパートレーナーの籠島から伝えられ、キッズ・ビジネススクールがスタートしました。

まず、今日、自分で稼ぎたいお金はいくらか、稼いだうち社会のために寄付する割合をどのくらいにするか、を決め、目標をたてました。

ご両親が一度会場から離れ、子供達とスタッフだけになると、子供達の顔も不安な色を見せます。ですが、もう次の瞬間には隣の子、同じグループの子と、どんな会社にしようかと、積極的に話し合っていました。会社名を決め、役職につく、この話し合いから各々の会社の社員という意識が芽生えました。

今回は全部で5つの会社が作られ、ドリンク・プラ板キーホルダー・携帯ストラップ・タオル・お菓子を、それぞれ主な売り物として、商品企画・事業計画をたてました。

何個作って売ろうか、問屋に材料はいくつあるのか、どういった商品ならお客様に喜ばれるか。商品を考える、と一言にいても、考えることはたくさんあり、子供達もいろんな意見をだしていました。

つぎに、材料費や宣伝費・給料、銀行から借りるお金・返すお金の金額を考えたり、会社の売上高・利益を予想し、事業計画書を作成しました。

スタッフからの助言も参考にしながら、形にし、資金調達に向かいます。

資金調達の場面では、三菱東京UFJ銀行葛西支店の方に来ていただき、本当の銀行の融資の方を相手にお金を借りにいきました。この場面で銀行の方に、「あなたたちの会社はどんな会社なのか・売りたい物・どうしてそれを売ろうと思っているのか・その金額で売れるのか」等々、質問をされ、子供達はたじたじになっていました。

「それでは貸せません」、と銀行の方に断られることも多く、がっかりした様子で自分の会社に戻っていき、そこで皆、どうして断られたのか、どこを改善したら良いのか、と真剣に話し合い、何度も銀行に向かい、交渉していました。大人と1対1で真剣に話す機会は今まで無かったのではないかと思います。

自分たちの思いを伝え、欲しいものを手に入れる、そのためにどうしたらいいか、ということ学べた良い機会だったと思います。

銀行から融資を受けることができた子供達は、皆ガッツポーズでした。

ここで、昼食です。まだ1日の半分ですが、大きな山場を越え、お腹もペコペコだったようです。たくさん食べていて、午後に向けての腹ごしらえをしっかりとっていました。

午後はまず、仕入・製造からはじまります。午前中に決めたそれぞれの商材を仕入れ、作り、販売しなければいけません。

売る際には、広告というのも大事な戦略です。どうしたらお店をのぞいてもらえるのか、何を売っているお店が分かりやすくするにはどうしたらいいか、など個々の商品や値段を看板を使って伝えよう、とポスターを一生懸命書いていました。文字だけでなく、絵も使って、お店のイメージを伝えられるポスターができたと思います。

商品を作ったら、数を確認し、販売価格を見直します。価格の見直しが終わったら、最終準備として販売マナーを学びます。

普段、話す言葉ではなく、お客様に対する話し方を学びます。いらっしやいませ、ありがとうございますなど、基本的な言葉ですが、大きな声でスマイルで、心をこめて言えるように練習しました。

いよいよ販売準備です。商品作りにおわれている会社もありましたが、時間内に準備を終わらせ、販売会場に向かいます。

今回は、小島町二丁目団地の一角をお借りして、団地店舗会の方々の協力の下、販売会場とさせていただきます。団地の方々や近辺にお住まいの方も、通りすがりに顔をのぞかせて、商品を買っていく光景を見ることができました。

お店でお客様を迎える子と、外にお客様を呼び込みに行く子と、それぞれ積極的に別れ、商品を販売しようと奮闘します。はじめは恥ずかしそうにしていた子も、すぐに、大きな声で呼びかけられるようになりました。お客様に、高いね、と言われると、どうしようどうしよう、とみんなで話し合い、値下げをしたり、そのままの価格を保ち、ねばったり、手段は様々ですが、自分たちで考え、売ろう、という気迫が伝わってきました。

見事に1時間で、5社とも完売です。

商品が売れる喜び、お客様が商品を手にした時の笑顔、売るほうも買うほうも幸せになれる、そんなビジネスの良い所を学べたのでは、と思います。

商品を販売した後は、会社に戻り、決算です。

値下げをした会社もあるので、今いったいいくら手元にあるのか、いくら増えたのか、売上高を計算します。損益計算書に数字を書き込み、実際に決算をし、銀行に借りたお金を返し、税務署に利益の10%を納め、最終利益をみんなで均等に分けました。給料袋に入った給料を社長役の子から手渡しされ、一生懸命稼いだお金を手に、皆、どこか誇らしげでした。

その中から、各自が自分で決めた額を募金をし、今日のビジネス体験は終了です。

会社ごとに、一人ずつ今日1日の感想を発表し、キッズ・ビジネススクールの実行委員長である、税理士法人ドリーム24所長、久野豊美から、修了証書を受取り、修了式となりました。

実行委員長から、「今日、頑張ったのは間違いなく、君達一人一人だけれど、今日、このビジネススクールが開けたのは、周りの人たちのおかげなんだ、ということをどうか覚えていて欲しい」、という言葉が参加者達に伝えられました。

小学5・6年生の参加者達には、まだまだ難しい言葉だったかもしれませんが、その想いの一部はきっと肌で感じられたことだと確信しております。会社というものの仕組みや、売り手と買い手の気持ち、自分で考えること、これからの自分たちの生き方の役に立つことを学びとれたことでしょう。

私達も伝える難しさを自覚し、お手本となる生き方ができるよう心掛けていかなければ、と学ぶことが多い1日でした。

5社が納めた税金と子供達の募金を合わせて、¥3297を、ユニセフに募金しました。



小学5・6年生23人が参加



事業計画作成



三菱東京UFJ銀行の方にお手伝いいただきました



銀行から借入れ



製造



製造



ポスター作成



小島町二丁目団地一角にて



販売



決算



決算



銀行に借りたお金を返済



利益の10%を税務署に納めます



利益を等分します



お疲れ様でした。 お給料です。



修了式

第3回 キッズ・ビジネススクール in えどがわ 決算報告

平成21年8月8日

単位:円

	ドリンク会社	プラバン株式会社	ニコニコストラップ会社	タオル☆プロジェクト	子供が売っているお菓子屋さん
売上高	11,360	7,310	8,900	12,160	7,750
費用	5,180	2,980	5,700	4,826	4,070
利益	6,180	4,330	3,200	7,334	3,680
税金	618	433	320	733	368
最終利益	5,562	3,897	2,880	6,601	3,312
利益率	49%	53%	32%	54%	43%
メンバー数	5	5	5	4	4
	人	人	人	人	人
一人当たり最終利益	1,112	779	576	1,650	828

* 会社の税金(利益の10%)の合計2,472円と、参加者それぞれが自分で決めて、自分の給料(一人当たり最終利益)から出した825円の合計3,297円をユニセフに募金しました。

振込金
(兼手数料)受取書

平成21年8月8日

金額 3,297
825

先方銀行 三菱銀行 東京店
東京UFJ 公務部

受取人 財団法人
日本ユニセフ協会

ご依頼人 キッズ・ビジネススクール in
えどがわ 実行委員会様

0000 000000

手数料受取人責任

上記の金額
正に受取り
ました。
(取扱店) 銀行 店

出納
21. 8. 12
三菱東京UFJ銀行 西(7)
取店

(取扱店→依頼人)